



感染症について知っておこう！

季節によって流行する感染症は異なりますが、病原体は常に身近に潜んでいます。感染症に罹患すると本人も辛いですが、周りの人にうつしてしまう可能性があります。予防方法や病原体の性質を学び、適切な対処をしましょう。

▼**感染経路** 感染症の感染経路は、病原体によってその経路が違います。

| 感染経路 | 特徴 | 主な病原体 |
|-------------|--|---|
| 空気感染 | 咳、くしゃみ、会話などで、空気の流れによって拡散し、同じ空間にいる人もそれを吸い込んで感染する。 | 結核菌、麻疹ウイルス、水痘ウイルスなど |
| 飛沫感染 | せき、くしゃみをした際に近くにいる人が吸い込むことで感染する。1～2m 前後で床に落下する。 | インフルエンザウイルス、ムンプスウイルス、風疹ウイルス、レジオネラ属菌など |
| 接触・経口(糞口)感染 | 感染した人や物に触れ、病原体の付着した手で、眼、鼻、口を触ることで感染する。 | ノロウイルス、ロタウイルス、腸管出血性大腸菌(O-157)、流行性角結膜炎、サルモネラなど |

▼感染予防の三原則

- A, 感染源の除去・・・殺菌・消毒(手洗い・うがいなど)
- B, 感染経路の遮断・・・清潔・清掃・衛生管理など
- C, 抵抗力を高める・・・バランスの取れた食事・適度な運動・睡眠・予防接種

WARNING!

感染したと思われる人と何らかの接触をしても症状が現れない、または症状が軽い場合があります。しかしながら病原体保有者の可能性を否定できないので、自分が新たな感染源にならないよう注意しましょう。

▼感染症が疑われるときの対応

学校への報告と一定期間の自宅休養が必要です！

学校保健安全法に定められた学校感染症と診断された場合、感染拡大を防ぐため、主治医から就学可能の判断があるまでは学校に登校せず病院又は自宅で療養してください。感染が疑われる場合(発熱・発疹・リンパ節の腫れなど)は、人にうつさないようマスクをするなど注意し、早めに医療機関を受診しましょう。

また、医療機関で学校感染症と診断されたら、下記の項目を速やかに保健室又は学生課まで電話連絡をいれてください。

連絡事項

- | | |
|------------------|--------------------|
| 1. 学籍番号・氏名 | 4. 連絡先・電話番号 |
| 2. 診断された病名 | 5. 最後に登校した日 |
| 3. いつからその症状があったか | 6. 主治医の説明内容(登校のめど) |
| 学芸 083-972-3288 | 芸短 083-972-2880 |

ところで知っている?!

風邪とインフルエンザの違い

| | 風邪 | インフルエンザ |
|----------|---------|---------|
| 症状の現れ方 | 局所(喉、鼻) | 全身 |
| 進行 | ゆるやか | 急激 |
| 発熱 | 36～38℃位 | 40℃前後 |
| 鼻水 | ひき始め | 後から続く |
| 咳 | 軽い | 強い |
| 頭・関節・筋肉痛 | 軽い | 強い |
| 寒気 | 軽い | 強い |